

## 第2回北区基本構想審議会 部会1「躍動」 議事録

日 時：令和3年12月13日（月）午前10時00分～午前11時49分

場 所：北区役所別館 研修室

出席者 加藤久和部会長                      阪口毅副部会長  
         青山匡史委員                              新井雅美委員                      大貫新一委員  
         織戸龍也委員                              平井久朗委員

### 1 開 会

### 2 今後の部会の進め方について（補足）

### 3 分野別の政策検討シートについて

#### （1）産業振興

- ① 意見共有
- ② 検討シート説明
- ③ 20年後の望ましい姿について（意見・感想）

#### （2）観光・シティプロモーション

- ① 意見共有
- ② 検討シート説明
- ③ 20年後の望ましい姿について（意見・感想）

### 4 その他

### 5 閉 会

## 議事要旨

### ○事務局

おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから第2回の「躍動」部会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、審議会・部会のご出席誠にありがとうございます。

では本日、はじめに部会に区側の出席者をご紹介します。

(出席者紹介)

### ○部会長

おはようございます。

躍動部会2回目ということで、我々もいろいろな宿題をいただきまして、いろいろ書いてきたところではあるかと思いますが、非常にこの部会の位置づけというのは非常に大事なところだろうと思っております。全体的に北区の中核を担うようなプランをつくる部会だろうというふうに認識しておりますので、ぜひ委員の皆様からは忌憚のないご意見・コメント等をいただければというふうに考えております。

それでは会議を進行させていただきます。

本日の部会の議題は、「今後の部会の進め方について（補足）」ということと、「分野別の政策検討シートについて」、「その他」ということになっております。それではよろしく願いいたします。

最初に、「今後の部会の進め方について」ということで、事務局からご説明いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

### ○事務局

事務局でございます。

「今後の部会の進め方について（補足）」について、説明させていただきます。

各部会で個別の政策について、議論を進めていただきますが、第2回審議会の全体会終了後、実施いたしました各部会でいただきました意見を踏まえ、部会の進め方について補足させていただきたいと思っております。

事前に送付させていただきました資料、「今後の部会の進め方について」をご覧ください。

資料の1番目の「20年後の北区の将来像を検討するにあたって、それぞれの委員のイメージを共有する必要があるのではないか」といったご意見を複数の部会で、いただいたところでございます。また、本部会で委員から、公募委員は応募の際に、「20年後の北区」について作文を書いているので、委員間のイメージを共有するために、全員が作文を書くというのはどうかという意見をいただきました。そこでいただきましたご意見の趣旨を踏まえ、委員の皆様各政策に対するイメージ、現状や課題、「将来この分野において北区がこうなってほしい」という想いのほか、議論したいこと、大切にしたいことなどを、事務局が説明する前に、まず、ご発言いただければ、現状のイメージを委員間で共有していただけるのではないかと考え、事前にイメージなどの記入をお願いさせていただいたところでございます。

各委員のご意見を共有いただいた上で、政策検討シート等について、事務局から説明後、皆様からこちらの分野における「20年後の望ましい姿」や、具体的な施策に関するご意見、ご感想を改めてご発言いただきたいと存じます。

そして会議終了後、他の委員のご意見等もお聞きいただいた上で、さらにご意見がある場合には、「20年後の望ましい姿」（部会后）のご記入をお願いさせていただきたいと考えております。

こちらの資料の2ページの（6）に記載がございますとおり、各部会の意見を取りまとめまして、4月の第5回で皆様へ部会まとめをお示しさせていただきますが、皆様にご記入いただきました「20年後の望ましい姿」の原文についても、タイミングを見て部会内で共有させていただきたいと考えております。

2ページ目の2番目の各部会での議論の内容については、議事録をメールにて共有させていただき、3番目の部会欠席時の対応については、お示しのとおり「20年後の望ましい姿」（部会前）のみご記入いただき、部会開催の前日までに送付いただきたいと考えております。

4番目の欠員が出た場合の対応については、お示しのとおりでございます。

最後に、5番目でございますが、現基本構想の達成度についても複数の委員からご指摘をいただきましたが、構想で定めた将来像や基本目標は様々な施策により構築されており、実現の可否などを具体的に判断するための成果指標は設けてございません。一方で達成度合いや進捗を把握するためには、施策評価として行う手法が一般的であり、今回は各施策についてご議論いただくための資料「政策検討シート」へ、幾つかの成果の指標をお示ししております。政策ごとの「20年後の望ましい姿」だけでなく、成果が不十分と感じる施策については、成果を上げるために必要な施策や考え方などについても、各部会でご発言いただければと考えております。

事務局からの説明は、以上でございます。

## ○部会長

どうもありがとうございました。

それではただいまの資料の説明で、ご質問等がございましたらよろしく願いいたします。どうぞご自由にご発言いただければと思います。特によろしいでしょうか。

では、私から確認で二つほどお伺いしたいのですけれども、私たちの部会はこのような形で事前にシートを提出する形にしていますが、ほかの部会はどのような形になっているかということと、それからもう一つ、ほかの部会の進捗状況についてこれはどのような形で議事録などがございますが、我々も知る必要があるかと思いますが、どのような形で知ることができるのか、こちらについて少しご確認させていただければと思います。

## ○事務局

まずは三つの部会とも全て同じ形で進めさせていただこうと考えております。先週の金曜日に部会3を実施をしているのですが、同じ形で実施させていただきました。

また進捗についてでございますが、部会の進め方についても2番目に各部会でも出した内容を共有すべきではないかというところで、メールアドレスについて皆様のものを

事務局で把握させていただいておりますので、議事録ができ次第、皆様にお送りさせていただきます。

以上でございます。

#### ○部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか、ほかに何かご質問であったり進め方についてであったり。よろしいでしょうか。

それでは早速ですが、「分野別の政策検討シートについて」にいきたいと思います。

「分野別の政策検討シートについて」の、まず「産業振興」についての議論を進めていきます。事務局の説明を受ける前に、各委員の皆様から、こちらの分野に対するご意見をまずは頂戴いたしたいと思っております。

事前に記入の依頼がありました「20年後の望ましい姿」について、もしご記入いただいた委員がいらっしゃれば、まずその方からご発言いただきたいと考えております。よろしいでしょうか。

多くの方が書いてきていただいているのではないかと思います。また、この場でご発言いただいてもいいかと思っておりますが、一応各順番に、手を挙げるというよりも、順番に回させていただければ思っております。

私から先に、自分で書いたものを読み上げさせていただきたいと思っております。

私自身、北区に在住しているわけではございませんで、ものすごく細かな地域ごとの話というのができるわけではないですが、しかし、北区が全体として産業でどのような姿が望ましいか、先ほど事務局からもお話がありましたが、基本構想ということでございますので、20年後の望ましい姿を自由に書くということで、少し書かせていただきました。

一つは、赤羽、十条、以下の商業地が伝統を支える小売店のみならず、若年層がクリスマスイベントなどで集まるような、先端的な食や文化を提供できる地区にさらに進んでいくということ。それからシャッター街をつくらず、持続可能な商店街づくりを進めること、そのためには商店街を支える若い人たちの力をさらに活用することが大事なのではないかと考えております。

また、私が個人的に起業するという事は、非常に大事だと思っておりますので、起業する若者が集まり、北区で行っております先端技術活用推進事業などを通じて、ベンチャー精神あふれる地域になって、20年後に進んでいくことが望ましいと考えております。

少し言葉として変なのですが、川は二つですが、将来的には例えば荒川リバーという形で、日本版シリコンバレー、そこまではなかなか大変かもしれませんが、技術革新を生み出すようなベンチャーが飛び出すような北区というのも魅力があるかなと思います。

また拠点となる大学などを中心にベンチャー企業を育む試みを進めるということが大事です。開業は読めないかもしれませんが、開廃業率は高く、新陳代謝が進む産業構造を目指すべきではないかと。大変一般的なことでございますが、私は北区がこのような形になっていくのが望ましいかなと考えております。

#### ○副部会長

おはようございます。よろしく願いいたします。

私も北区との関わりが区役所を通じての限定的なものですので、それを地域ごとの特色などをおさえた形でのイメージではないですけれども、前回の様々なアンケートであったり、住民の方がお持ちの地域イメージなどを見ていると、やはり商店街というのが地域の産業の核になっているということは言えると思います。

ただ、一方で20年後も今の形で商店街が残るのかということが一番大きな課題になってくるのではないかと思います。中小の小売業の衰退と、それから代替わりの交代が一番大きいのではないかと思います。特にオンライン市場が拡大していくことで、特定の場所で購買すること自体に意義が失われていくことは避けられないと思います。

つまり、商店街を支えているのは、地理的に居住地域と近いということの優位性でというところがあると思うのですけれども、そこが薄れてきてしまう中で、どうやってその場所の力を取り戻すのかによるのではないかなと思います。

一つはオンライン市場の中で付加価値のあるものは逆にどこにでも売れるという意味では、場所にこだわらない商売を考える必要があるかもしれないですが、やはり商店街という形で空間というか、場所がそこにあるということの魅力がやはり地域の住民の方が、愛着を持ってということが必要ではないかなと思いますので、何か来訪することでしか買えないものとか、体験ですよ、その場所で買うということの体験みたいなものがより推進できる形で政策が進んでいけばいいかなと思います。

もう一つは、先ほどの部会長のお話しにありましたけれども、流動性の確保ということが、商店街を維持していくに当たっては身近なものではないかなと思います。空きテナントが、マッチングされてそこに埋まっていくかということで、郊外であれば例えば団地の下の商店街のところは、コミュニティカフェになっていることがありますけれども、結果コミュニティカフェが乱立していてあまり商店街の魅力が残っていないところを見てきましたので、何かもっと若手起業家であったり、あるいはコミュニティビジネス等を展開するような社会起業家の人たちが提案できればと思います。例えば町工場などで取り組みがあるようなのですが、代替わりが困難な経営者とのマッチングみたいなものというものあり得るのではないかと思います。空きテナントになる前に何かやるというのがあり得るかなと思いました。

それから、もう一つは、若者の就労支援であったり、若者をどう引きつけるかということが持続可能に欠けている点かなと思います。子育て層が流入しているということは、前回データで示されていましたが、その子育てを始める前の段階の世代を引きつけていくことが課題になってくるかなと思います。

それからコロナ以降ということを考えますとリモート化が進んでいくので、何かシェアオフィスであったり、北区という場所に居ながら働くことの意義みたいなものも打ち出していくといいのかなと思いました。

雑駁ではありましたが、私の意見でした。

○部会長

ありがとうございました。

○委員

私、住んでいて周りの友人とかの話を知ると、結構北区の中で働きたいという方はいらっしやって、いわゆる職住隣接をしたい方は結構いらっしやるのですけれども、ただやはりそこで論点になっていくのはライフワークバランスですね。中小企業が多いと思うのですけれども、そこではやはり人も少ないのでライフワークバランスもしっかりとれないということが言われて、北区外のほかの企業に働いている、働きに行くということを知りますので、やはり中小企業の支援ではライフスタイルが今後もオンライン化が進んでいくと思うので、そういうライフワークバランスの推進を行なうことと、先ほどの委員のお話と少しかぶる気がしますが、商工業における後継者不足であったり、労働者不足というか、深刻化になっていると思いますし、これからも進むとされます。ですので、就業支援や後継者の育成、それから後継者のマッチングの取組みなどを進めていく必要があると思います。

また、商店街に関しては、やはり20年後は多くの人で賑わう、便利で魅力的な商店街になってほしいと個人的には思っております。近くでも5年ぐらい前に大きなショッピングモールができましたけれども、そうしたら商店街三つぐらいありますけれども、全て衰退してしまっていて、やはり個人商店ですと価格競争では負けてしまうのはもう当たり前だと思いますので、ほかの商店街という空間で買物ができたり、触れ合うことができるという魅力を発信する必要があるのかなと思いました。

以上になります。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

よろしくお願いします。

私、ここに書かせていただいたものを、少し的外れなところもあるかと思うので、少し口頭でお話させていただきます。

いただきました資料を見まして、働きやすい環境づくりというところを拝見させていただいて、ワークライフバランス、各種ハラスメントに関する講座及び啓発活動などを実施してきたというところがありました。産後助成ですね、妊娠して出産した方が職場に戻るための福利厚生を入れている企業というのはまだまだ少ないです。また出産のことを考えると、自分の仕事の昇給に、お休みをすると昇給に関わってしまう。勤続年数が欠けてしまうというところで、妊娠・出産を先遅れにしている。結果高齢出産になってしまう。そして、子どもを産むチャンスを失ってしまうといった現状もありますので、そういったところの産後女性が復職しやすい、そして子どもを産みながらも仕事ができやすいというモデルケースみたいなものをつくっていけるといいなと思いました。

それから、私も地域を歩いていますと、商店街のシャッター、それから老朽化をよく目にします。シャッターを閉じてしまっているその空き店舗というか個人の家があります。その家に居ぬきですぐに、どなたか入るといことは難しいと思います。老朽化しているので、そこに新たにというのは難しいと思いますけれども、廃業して、老朽化も進んでいる、立て直しをするといったときに、ここに空き店舗を入れたり、自分の技術を新たな後

継者に承継するということも含めて、家屋を改築するというようなサービス提供、マッチングの一つになってくると思いますけれども、そういうのが出てくるのも面白いんじゃないかなと考えました。

また、これは産業に入るか分からないですけれども、私自身、子育てをされていて北区で子ども洋品を買えるところがすごく少ないですね。子ども用品のものを置いてあっても、売場面積が次々と縮小していく。「子育てするなら北区が一番」というわりに、子育てが大変しづらいなと感じています。

ここと産業がうまく結びついて、ショッピングモールではないですけれども、北区は、赤羽はJRがたくさん入ってきているがために外に出やすいというのがあるので、北区の中でママが活動するときには、外に行ってしまう傾向があります。反対に北区に遊びに来るというママを増やすということもできると思いますので、北区でもう少しママが集まれる場所、北区に住んでいてよかった、ここに定住したいと思えるショッピングモールというか、お店のコンセプトづくりとかというのをさせていただきたいなと考えました。

以上になります。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

個々に問題点といいますか、箇条書きにさせていただいて、一つ一つもしお話をするならこちらについて広げてお話しようかなと思っていたのですが、切りがなくて1時間たってもお話し切れないような内容がものすごくあり、結局この政策検討シートを拝見させていただいて、これだけのことを時代を繰り越して行政の方はやられてきたのですね。

それで20年後の望ましい姿というような形を考えたときに、漠然としていて、果たして20年後の世界はどんなのだろう。私は今60になるのですけれども、私が0歳のとき、20歳のとき、40歳のとき、それで今現在、4世代にわたって4回こういうような基本構想、確立させていただいてきたと思うのですけれども、時代時代で20年後なんて、今こういった携帯電話が普及して、お話しできるような時代背景というのはなかった。駅で待ち合わせをしても、駅のこちらと向こうで待ち合わせをされていて会えないような時代を生活してきました。今の現段階で問題点を20年後にはどのようになくすかというのがまず本当に漠然とした課題だと思っています。

その中にある、例えば今問題になっている買い物難民をどうするかとか、地域格差が産業振興の面で個々に少し捉えて書いてありすけれども、今防犯カメラでハードの面をどうするか、あと地域性をどうするかという、現代の問題点を20年後にはどういうふうにそれをゼロに近づけるかというのかというのはいずれ1点だと思います。

次に20年後にあってしまうような問題点を現段階でどうやってつくらないでいくのか。それが例えば環境アセスメントの問題であったり、かなり激甚化してくる自然災害なんかはどうやって備えていったらいいのかを考えていく必要があると思います。20年後に今おっしゃっていた荒川とか隅田川、石神井川が決壊する可能性があるのなら、20年後には絶対にそれがなくなようなまちづくりをしていかなければならない。産業振興の考えでも、

やはり商店街を災害に強い商店街との連携を取っていかなければいけない。

本当に個々に、新たな問題をつくらないというのがまず段階で、本当にこの20年後の望ましい姿は漠然としているので、こういうような答え方しかできないですけども、一番下のところに現状として、商店街として、買いたい店がないとか、買いたい商品がないであったり、ネットで見ても、実際にお店に行って、試着して、また戻ってネットで買ってしまったり、いろんな個々の問題はあります。そこでしか買えない魅力とかそういったものというのは、本当にいろんなところでどうやってまちづくりをしているのかを考えていらっしゃる方が多々いらっしゃるの、行政としてどうやって力添えをしていただけるのか、企業努力でどうやって後押しをしていただくかというのを本当に5年後、20年後というわけではなく、現代社会から5年後、10年後に向けてお話いただければなという、皆様でその辺をご検討いただければなと思いました。

#### ○部会長

はい、どうもありがとうございました。

#### ○委員

他の委員が今おっしゃったことにすごくかぶる部分がありますけれども、いろいろなジャンルで考えていくとかなり深い部分になってしまったので、私もキーワードだけを四つのセンテンスに分けて書かせていただきましたが、結果的に今の子どもたちが故郷として、住み続けたいまちづくりというのが必要なのかなと思っていて、今ベッドタウン化が進んでしまって、結局、住居としてタワーマンションが建ったりとかというのはあるけれども、やはり暮らしたい町、働きたい町にしていくにはどうしたらいいか。

それは北区の魅力、北区らしさとよくいろんなところに言葉がでてきますけれども、では、本当の北区らしさは何なのかと思った場合、私は今この北区に住みはじめてから、地域ごとに銭湯が残っていたりとか、商店街がきちんとまだ息を吹いていること、これが大事だなと思っています。土地の魅力というのを最大限、これからも発揮をしていくためにはどのようなアプローチができるのかなと。これが今までの収支の考え方の、いわゆる銭湯だったら、銭湯の入浴料だけでやっていくとなると、人口に対して銭湯を使う人が減ってしまっている以上は、やはり減っていつてしまう。でもこれが地域の魅力として発信していくのであれば、銭湯がほかの形で経済効果を上げられる方法を考えていかなければならないと思います。

これは産業振興だけの話ではなく、観光・シティプロモーションの話にもなっていくと思いますけれども、結果的にそれがこの地域の魅力だと思って、下町の文化がすてきですということをきちんと発信していくことから、この町に住み続けたい、そしてここで働きたいという人増やさなければいけないと思っています。

なので、何か今までの働き方、商店街だと結果的に、後継者をつくるだけだと同じような働き方では、もう暮らしていけないから、では、ほかの仕事もしなきゃいけないねとなった場合に町から出ていつてしまうのかなと思うので、その辺りをどのような形でサポートしていくかというのが、今後、公民連携の形を取りながらも、やはり、公のほうからそういう形での民間を助けていくという方法が取れるのか。ただそれは事業を委





うものの電子化を進めていくべきではないのか。

商店街、皆様ご存じだと思っておりますけれども、利益が出て初めて続けられる商売であって、利益が出なければ、撤退していくしかない。あとは高齢で今までずっと地元と一緒にやってきたけども、もう体力的にも無理だ。だけどこれ息子に継がせるわけにも、そこまで利益が出ないと。そういうような中でやっているの、今ある形が逆に言うと自然なのかなと。

逆に十条銀座みたいなところはまだ人手が多く、ほかのお店で人を呼んでくれて、何とか自分の店もやっているというような方、それからチェーン店が入ってきたりということで、形は出来上がっていますけれども、ただ先ほど皆様も言っていたのが、商店街のつまらなさというのは、チェーン店が多くなればなるほど便利ではあるけども非常につまらないというのもありまして、その辺のバランスもちょっと考えていかなきゃいけないと思うのですが、そこに一応カンフル剤ではないですが、若手にとにかたく入っていただいて、商店街を刺激するというか、そういうような対策が将来に向かってできないだろうか。

商店街のよさというのは、皆様も夜歩いている、電灯がついているのも商店街が半分もっていたり、もちろん区の補助も十分ありますけれども、あそこの電気が消えたら非常に防犯的にも困った通りになってしまうのもあるので、本当の商店街の意味というのは、地域とのコミュニティ、お祭りであったり、何かやったり、そういう文化はやはり残していかなければならないと。ただ、残すというよりは、それが20年後に向けて、もっと飛躍的な皆様に理解させるものにしていきたい、していかなければいけないのではないかと考えております。

とにかく、今、商店街で必要なのは若手の知恵と若手のパワー、そういうものが誘致できれば、まだ北区の商店街はやっていけるのではないかとということで、今回20年後の姿ということで、ばらばらに言わせていただきましたけれども、人に優しいであったり、もちろん大きなテーマではありますけれども、具体的な提案、そういうものが一つ一つ積み重ねて出来上がっていく形を、この部会でできたらいいのではないかなと個人的に感じております。

以上です。

#### ○部会長

どうもありがとうございました。

委員の皆様方からご意見、コメントをいただきまして、全体の方向性というものが見えてきたのかなと。いろいろな皆様のイメージがだんだんと集まってきたのかなという感じがしております。

それでは、次に政策検討シート「産業振興」について、事務局のほうからご説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

#### ○事務局

事務局でございます。

政策検討シートについて説明をさせていただく前に、今日欠席の委員からもご意見をい

ただいておりますので、そちらについて共有をさせていただきたいと思っております。

区内で働く、区内で企業をしている、空き家を利用して企業、マルシェ、週末起業。中学生のうちから働くこと、起業に親しむ。職場体験、起業セミナー、ワークライフバランス講座。お金の管理、使い方を学ぶ、クレジットカードや詐欺など、北区独自の通貨。北区で農業。北区に農地を作る。二拠点生活。週末は甘楽で畑や田舎生活。平日は北区で働いて住む。こちらの甘楽というのは、群馬の甘楽でございまして、北区と友好都市交流拠点を結んでいる自治体でございます。

次に保育士、看護師、介護士を育てる働きやすい場所、みんなに優しい商店街。ベビーカーや子連れでも入りやすい、働きやすい環境。保育園や給食業者が帰宅困難者に向けて、お雑煮販売など、最後に北区で生まれ、育ち、働く。卒業生が児童館やわくわく広場、役所でアルバイトをする。

以上の産業振興をテーマについて、いただいた意見の共有させていただきました。

続きまして、政策検討シートについて、事務局から説明させていただきたいと思っております。こちらのシートと、こちらの基本計画2020を活用しながら説明させていただきたいと思っております。

まず、このシートでございますが、基本計画2020の74ページをご覧くださいませでしょうか。こちらの74ページでございます政策の2-1の「地域産業の活性化」の観光分野以外のこちらの政策と、続いて、119ページをご覧くださいませもよろしいでしょうか。119ページでございます。119ページの2-8の「男女共同参画社会の実現」。こちらにございますワークライフバランスと、もう一つ、125ページでございます。125ページの2-9の「主体的な消費生活の推進」こちらの政策を合わせて、一つの政策としてこちら産業振興、こちらの検討シートにまとめたところでございます。冒頭に申し上げました2-1「産業振興分野」をベースに、働きやすい環境づくりとして、ワークライフバランスの視点を含めた形とさせていただきます。

また、消費生活については、防犯や環境の観点もありますが、エシカル消費を実現する消費者教育を推進することにより、消費者の自立を支援するとともに、持続可能な区内産業の支援にもつなげ、区内産業を活性化させたいという思いもあり、消費生活については、産業に近い位置づけで掲載をさせていただいているところでございます。

あわせて、消費生活の安定を図るための消費生活センターなのですが、産業振興課内にもあり、同じ政策内に位置づけたほうが、事業展開もしやすいということで、こちら政策をまとめさせていただいたところでございます。

こちらの政策検討シートの構成でございますが、1枚目が1の「当該分野の実績と成果」、2が「当該分野における区を取り巻く環境の変化」をお示ししております。2枚目でございますそれぞれの分野に、「区の現状」、「今後の課題」、「取組みの方向性」ということで、まとめさせていただいております。

事務局から検討シートについて説明をさせていただいた後に、先ほども申し上げましたが、皆様からこの分野における「20年後の望ましい姿」や、具体的な施策に関するご意見、ご感想などを、改めてご発言いただきたいと思いますと考えております。

また、こちらの基本計画2020の240ページをご覧ください。

こちらの現基本構想の1文目にございます。先日の審議会で説明させていただきました

とおり、お示しの大きな目標、この分野については、現状ですと「一人ひとりがいきいきと活動するまちづくり」ですが、今回策定する構想案については、20年後の北区の望ましい姿について、こういった文章を作成していくことがゴールと考えております。今回いただきますご意見や、提出いただきました「20年後の望ましい姿」については、基本構想案に活用させていただきだけでなく、令和4年以降、基本計画で盛り込む基本的施策の方向を検討する際も、活用させていただきたいと思っています。

こちらの240ページの文章をご覧いただいたその下辺り、隣のページ、241ページの地域産業の活性化であったり、コミュニティの活動の活性化。こういった基本的な施策については、基本計画のほうで策定をして、あくまでも基本構想についてはお示しの240ページにこういった文章を作っていくということ、改めてご説明させていただきました。

それでは、「産業振興」の検討シートについて、説明を順次させていただきたいと思っております。

1の当該分野の実績と成果については「産業振興」の各項目において、これまで区が取り組んできた事業等の実績と、可能な限り区民の視点から成果として、これらの事業がどの程度進んだのかといった観点に着目して記載しておりまして、これら実績や成果を踏まえて、2枚目の現状や課題などです。

まず、産業振興の(1)の項目でございます。経営支援・創業支援の主な実績。一つ目の「中小企業融資のあっせん実施数」がございまして、その右隣に主な成果がございまして、主な成果が「中小企業融資の実行件数や実行率」のように、主な実績から導き出された主な成果というふうにご覧をいただければと思います。なお、ここでお示しさせていただいている件数等は、主に平成27年度以降の実績ということで、記載しております。

(1)の二つ目のワンストップ相談でございます。こちらは区内中小企業からの幅広い経営相談について、経験豊富な中小企業診断士、技術相談員、販路コーディネーターなどが、日替わりで無料相談をお受けしているところでございます。

(1)の四つ目のコミュニティビジネスですが、こちらは住民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業でございます。

その次の(2)のモノづくりの振興の主な実績ですが、中小企業者の技術開発推進や労働生産性の向上のために、一つ目の先端技術活用推進事業などを実施しております。

(2)の二つ目でございます。こちら新規市場開拓、区内ものづくり中小企業が、大学・公的研究機関等と行う共同開発に要する経費を補助する事業も実施しております。

三つ目でございます。ものづくり人材育成支援事業、こちらについては企業の中核となる人材の育成を支援するため、外部機関が実施する研修などへ従業員が参加する際の費用などを一部補助する事業でございます。

その次、(3)の生活サービス産業の育成でございます。こちらの主な実績でございます。二つ目の商店街魅力発信サポート事業は、「魅力発見！北区東京学生プレゼンコンテスト」で提案されたアイデアの実現について経費の一部を補助する事業でございます。

続いて、三つ目の個店連携支援事業。こちらは先進的な取組を積極的に実施する意欲ある区内の個店グループに対して、取組に要する経費の一部を助成するものでございまして、構成員の8割が50歳以下の場合には補助率を拡充した支援を実施しております。なお、12個店グループに、若手個店グループの支援数も含まれているということで書かせていた

だいております。

続いて（４）の働きやすい環境づくりのこちらの主な実績ですが、ワークライフバランス等の講座や啓発活動を実施や就労支援でございます。

その次の（５）の主体的な消費生活の推進の主な実績ですが、消費者生活情報の提供や、講座等の実施でございます。

（５）の二つ目、先ほどエシカル消費という言葉を出させていただきました。エシカル消費というのは、地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動でございます。

続いて２の当該分野における区を取り巻く環境の変化ですが、こちらは１の項目の（１）～（５）について、社会経済動向、法制度や国・都の政策の変化、区民ニーズや行動の変化で分けてお示ししております。

まず、左下にございます社会経済動向でございますが、テレワークやオンライン会議などの普及、働きやすい環境づくりの推進、令和４年の成年年齢引下げによる影響などを挙げております。

続いて真ん中の法制度や国・都の政策の変化でございます。こちらは一番下でございませう。一番下から１番目でございます。東京都が令和３年３月に策定いたしました２０４０年代に目指す東京の姿と、その実現のための２０３０年に向けて取り組むべき戦略を提示した「未来の東京戦略」から引用した文章でございます。目指す２０４０年代の東京都の姿として、テレワークが一般的で出社は週１日、二つ以上の仕事を持つ複業などの自由な働き方の一般化など、２０４０年代の東京都の姿として掲げています。

その横の区民のニーズや行動の変化でございますが、キャッシュレス決済の需要の拡大、勤労者が企業を選択する際の一つの基準として、ワークライフバランスなどの取組みを重視する傾向にあることなどを挙げております。

続いて２枚目、３の区の現状の（１）の経営支援・創業促進についての現状以下の課題、取組みの方向性についてご説明させていただきたいと思っております。

まず、３の（１）でございます。区内事業所や、従業員数の減少、こちら現状として挙げさせていただいております。こちらは関連資料がございます。

図表の１、少し古いデータになりますが、区内の事業所数と事業所あたりの従業員ということで記載させていただいております。こちら（１）の現状に対する課題でございます。こちら４番の今後の課題の上二つでございます。多様な主体との連携と多面的な支援。創業ニーズの多様化などの対応。こちらが現状に対する課題として捉えております。

その課題に対する取組みの方向性でございます。主な取組みの方向性の上から二つでございます。関連機関との連携、事業者に寄り添った多面的な支援、創業支援機能の在り方の見直しなどを取組みの方向性とさせていただきます。こちらを捉えております。

また、区の現状に戻っていただきまして、（２）モノづくりの振興について、価値観やニーズ、ライフスタイルの変化への対応などがモノづくりの振興の現状として捉えています。

また、左下の課題でございます。４の上から三つ目、四つ目、五つ目に記載がございませう。まず三つ目でございます。先端技術の活用、新製品・新技術の開発、四つ目が技能継承など、五つ目が商品開発や販売促進、ブランド力の強化など、こちらを課題として挙げ

ております。

その課題に対する取組みの方向性でございます。5番目の上から三つ目、四つ目でございます。先端技術の活用や販路拡大・人材育成などの支援、新しい商品開発を促進し、北区ブランドの認定や区内外への発信。これを分野の取組みの方向性とさせていただきます。

また区の現状（3）にお戻りいただきまして、（3）の生活サービス産業の育成については、主に商店街への支援の観点で、現状以下の課題、取組みの方向性について記載しております。現状としては大型店・コンビニ等の進出、インターネット購買の普及などによる商店街の顧客離れや、後継者不足による廃業などがございます。こちらは関連資料で図表2もご覧いただければと思います。商店街店舗を「よく利用する」、「ときどき利用する」、「あまり利用しない」、「全く利用しない」と分けて、調査結果をお示しさせていただきます。こちらの課題は4の上から六つ目でございます。商店街の価値の維持と来訪者増加に向けた取組み。こちらについての取組みの方向性は5の上から五つ目、個店の活性化に向けた講座の開催、非接触型決済の支援などを取組みの方向性とさせていただきます。

また、区の現状の（4）の働きやすい環境づくりについては、主にワークライフバランスや各種ハラスメントの観点で、現状、以下の課題、取組の方向性について記載しております。

まず、現状を複数上げているのですが、ワークライフバランスや各種ハラスメントへの取組が不十分であること。関連資料は、図表3でございます。

こちらでも定員30名ほどの講演会の参加者数の推移ですが、勤労者の講座の参加者数は少ない傾向にございます。

こちら（4）働きやすい環境づくりの課題は、4の上から七つ目、八つ目でございます。

ワークライフバランスというところの文章と、従業員の健康状態、この文章をご覧いただければと思います。勤労者への周知、啓発や企業側の体制整備、健康経営の推進、こちらを課題としております。

こちらの課題についての取組みの方向性は、隣の上から六つ目、七つ目でございます。ワークライフバランスなどについての情報発信、在宅勤務の導入などの取組みを推進、健康経営推進についての普及啓発と支援でございます。

3の区の現状の項目、最後でございます。

主体的な消費生活の推進、こちらについては現状以下の課題、取組みの方向性についてですが、現状でございますが、高齢者の契約トラブルや成年年齢を引下げによる相談の増加、消費者の自立を高めるための消費者教育実施などがございます。関連資料は図表4でございます。

70代以上の方の相談、一番多いというところがございますが、若年世代の相談件数も年々伸びているといったところ、お示しのとおりでございます。

主体的な消費生活の推進の今後の課題でございます。こちらが4の下から二つ目でございます。

ライフステージに応じた消費者教育の推進、エシカル消費の普及啓発。こちらの取組

みの方向性は5の取組みの方向性の下から二つ目でございます。課題と同様、消費者教育の推進やエシカル消費の普及啓発、これを取組みの方向性としています。

今後の課題と取組の方向性の一番最後の下の記述でございます。4の今後の課題と5の取組の方向性の、最後のSDGsの取組について、産業分野全般に関わるということで、最後に記載させていただきました。

検討シートの産業振興の説明は、以上でございます。

#### ○部会長

どうも、ご説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの資料の説明をいただきまして、改めて皆様がこの分野の「20年後の望ましい姿」や具体的な施策に関するご意見、ご感想等を、もし可能であれば改めてお一方ずつご発言いただければと考えております。

検討シートの話も含めてご自由にご発言いただければ。

#### ○委員

まず1つ聞いていいでしょうか。

最後の図表4の消費生活相談の年齢別の内訳がありますけれども、この70代、60代辺りで多い相談というのはどういうものなのでしょうか。

#### ○事務局

事務局でございます。相談内容の累計が手元になかったところなのですが、基本的にはやはり防犯関係のご相談が多いと認識しております。

例えば契約のトラブル、あと商品サービスに対する苦情、ご高齢になるとそういった通販とかで物を買ってしまった方とか、そういったものがご高齢の方からの相談で一番多いのかなと事務局として認識しています。

以上です。

#### ○委員

ありがとうございます。

皆様のいろいろな意見を聞かせていただいたり、今こちらの説明等を伺って、一言で言いますと、現状の問題点をもう一度項目ごとに洗い出して、では次にどういうふうに進めていくかということと、あと理想というものを掲げて物事を考えていかなきゃいけないのかなというのを感じました。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

現状というのは、この政策検討シートに書いてあることを実施しながら、ある程度成果が出ている中で、想定している中での、何かこの成果としては今どういう段階なので

しょうか。

今、徐々に出てきている段階なのか、これがもうピークを越えてもうだんだん次のことを新しいことに向けて動かないといけない状況なのか。まだまだこれは継続的にやる段階なのかというと、この辺りというのは少し幅が広いですがけれども、やっていることに対しての状況って、どのような状況でしょうか。

#### ○事務局

事務局でございます。

まず、主な実績については、課題として捉えているものに対して事業実施しているというところになるので、主な成果にお示ししたように、今できる範囲のものというのは、実施しているという認識をしています。

ただ、それをもって、また新たな課題に対して実際にうまく全てが対応できているかと言ったらそうでないというところなので、全般的なご質問なのでお答えも難しいのですが、課題として捉えている事象について、事業展開することにより、ある程度の成果自体は出ているというようところが、事務局として認識しているところでございます。以上です。

#### ○委員

ありがとうございます。

ある程度、成果が出ているということだったのですけれども、それぞれにおいて皆様の中では、まだまだ少しこれでは北区は駄目だぞと思っている反面の意見が多かったのかなと思った次第で。

多分、この20年後という望ましい姿という想定の話の皆様でしたときに、どうしても今のマイナスなところが目につきがちだったのかなというのが印象的でした。私も多分そういうところも含めて書いてしまったのですけれども、何か、今伸びているところをさらに伸ばす話だったり、ゼロからイチをつくるということももちろんあると思いますので。問題解決というのは必ずしもマイナスからイチにすることではないなと感じていますので、現在、これが伸びている、成果が出ていることなのであれば引き続きもっと続けていくべきだと思いますし。

これからもっと新しい課題というのは臨機応変にこのコロナ禍も含めて、アフターコロナの北区がどうやって変わっていくかを、もう少し一緒に考えていけたらいいなと思いました。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

皆様のお話をお伺いして、各論的にそれぞれの立場でこういった問題点がある、今後こうしていただきたいというようなしっかりとした方向を取捨していただけるというのは本当にありがたいと思います。



可能性として、それを今後20年後にどういうふうにしていくべきか。それをどういうふうに行行政と手を組んでうまくやっていくか。あとは、自己啓発を含めて、団体組織がどういう対応をしていけるのかというのを、やはり検討事項として挙げられているというのが、私が受けた印象でした。

この政策検討シートを拝見していただきながら、この20年後の望ましい姿というのを、皆様ビジョンを描いていると思います。この中で、今後の課題はこうですよ、取組みの方向性はこうですよ、という示唆していただいた中で、やはり20年後をしっかりとしたこういう問題があるので、こういうふうな形で対応していきますとか。あとは、今現状これだけいいことをやっているの、それは引き続き20年後も継続してやっていきたいという、少し具体的な案をお示ししていただいたほうが、受け手として把握しやすいのではないかと考えております。

○部会長

ありがとうございました。

○委員

ありがとうございます。

先生方お二人からは、大きい企業、シリコンバレーの話も出たりして、以下は地域に住んでいる人間として個店とか、商店街の話、地域に根差したというところの話と、この二つがどういうふうにマッチして、基本構想に載っていくのかなというところを考えておりました。

その視点が、今ある240ページのところには少し薄いのかなというか。この地域住民が考えている問題性というところが出ていて、その目線だけでやはりつくっていくのは問題があるなというふうに感じました。

地域の商店街がというところと、確かに私も荒川土手沿いに住んでおまして、区内企業の工場がどんどん小さくなっていき、そこにどんどんマンションや公園があつて、工場がどんどんなくなって多分海外に出ていくというところを見ていたりして。大きい企業を誘致することが必要なのか。地元住民だけでは頑張っ生きていけないのか、私には少し知識はなくて分からないのですけれども、そういうところも議論していくべきところなのかなと感じました。

○部会長

ありがとうございました。

○委員

皆様の意見で政策検討シートという、政策検討シートの中で実績を、成果が出ているものがあるということが分かりましたので、やはりこれは今後も続けていく必要があるかなと思いました。

また、委員の皆様の意見を聞いて、自分では考えつかないほかの観点からの産業振興をどうすべきかが分かったのですけれども。話を聞いていて1点、こちらの政策検討

シートにも載ってはなかったのですが、外国人が増加しているということで、外国人の就労支援や、外国人に関する産業振興のテーマは、今後必要になるのではないかなど、そのように思いました。

以上です。

○部会長

ありがとうございました。

○副部会長

皆様、ご意見いただきありがとうございました。

大変勉強になることが多くありましたし、あと、政策検討シート、事前にも目を通していましたが、これだけのことを既にやられていて、具体的な成果も出ているということを改めて分かりました。

その上で、1点、私自身の意見もそうだったのですが、20年後の高齢者というのは今の50代、60代と思うと、案外もう、パソコンやスマートフォンを当たり前に使こなせていて、何でも必要なものはオンラインで購入するという世代がもう20年後にはメインになっているのかなと思いました。

そうすると、じゃあ小売業とか商店街の方の場所に根差した消費の価値って、何なのかなと改めて考え直す必要があるのかなと思いました。今の延長線上にはない、もしかしたらないのかもしれないなと思いました。今、すごく過渡期なのだという気がします。

あと、政策検討シートの中で幾つもの、既にこれだけのことをされているというところがよかったのですが、一つポイントになるかなと思ったのが、個々のビジネスと個々の企業とか、個々の個店へのサポートとかということは、すごく拡充されている一方で、それをどうつなぎ合わせて面として見せていくのかというところが、何かもう一歩あってもいいのかなという気がいたしました。

起業させた後、どうそれを地域と連携させていくのかとか。あるいは、1つずつ企業、小売業を含めて、それがどうネットワーキングされていくのかというところが、場所の魅力をつくるということと結び合っていくといいのではないかなと思いました。

以上です。

○部会長

ありがとうございました。

この政策検討シートと、皆様からいただいた20年後の構想というのをずっと伺っていた中で、私個人もいろいろありますけれども、非常に気になったご意見が幾つかありました。

一つは、今、他の委員もおっしゃっていましたが、20年後をどう考えればいいのか。

これは、もしかすると現在をそのまま真っすぐ通していっても20年後分かりませんし、だからといって何もやらないわけにはいかない。そして今何が進んでいるのかということで、20年後どう考えていくのか大事だというのは、お二人の委員から出された

大事な問題かなと思っております。

それから、私も少し書き忘れて、非常に大事なところは産業振興の中で、委員が言及されたように、外国人、国際化の話をどうしていくのかというのの中にも少し入ってくるのかなと思います。

あと、産業の中で、委員が非常にすばらしいことをおっしゃっていて。マイナスからイチにするだけじゃなくて、イチをニにするとか、ゼロをイチにするとか、そういったところもメニューにならなければいけない。でも、我々がどう考えてもマイナスのところばかり目がいってしまうということもあるのかなと思います。

それと、あと、委員からも伺ったのですけれども、買物の問題ですね。

これは、私の個人的な考えですけれども、ネットで買物するだけでは済まない地域を私たちでつくっているのかなというのが一つの大きな形なのかなと思います。

また、ワークライフバランスの話があちらこちら出ているのですが、多分ワークライフバランスも大事ですけれども、それ以上にいかにしてフレキシブルな働き方を支えていくのか。その人たちをどう支援していくのかというのが今後の新しい働き方、意識改革の支援なのだと。そういった視点もあるといいかなと思いました。

このような形で進め、まずは産業振興のほうは皆様方のご意見等を伺ったということにさせていただきたいと思っております。

続けて、今度は観光・シティプロモーションということで、同じような形で進めさせていただければと考えております。

また皆様方からご発言をいただくことになるかと思っております。最初と同じようにまず私のほうから、観光・シティプロモーションというところでの20年後の望ましい姿で、まずは申し上げさせていただきたいと思っております。

北区自体は、北区というだけで全てが解決できるわけではなくて、荒川区やいろいろな区との連携も必要だとは思いますが、やはり北区のイメージ自体が、若年層を中心としたベッドタウンとしてのイメージが定着して、都心部から、例えば新宿とか中野区などにいる若者が、東京都の中で、23区内で家族形成期にあるカップルが移り住む際に第一の選択肢になるようなまちになればいいなと思う。

それから、関係人口ということで随分、何人かの委員の方からも話をいただいて、私自身も、関係人口、まずは北区を知ってもらおうということが一番大事だろうと思っております。知ってもらわないと何も始まらないということで、行きたいまちナンバーワンとなるような、新しい北区のイメージ。大変言いづらいですが、最近いろんな書籍でいろんな区のイメージ等々話が出てくるんですが、北区のイメージが非常にいいというところは言っていないので。このイメージをいかに変えていくのかというのが大事なかなと思っております。

また、観光・シティプロモーションとは少し違うとは思いますが、高齢化が進む中で、地域包括ケア、コミュニティ、特に高齢者のコミュニティを大切にしたい社会政策を充実していると、「子育てするなら北区」だけじゃなくて、やっぱり老後も住むので、やっぱりこういったところが必要なのかなというふうに思います。

その意味で言うと、古い話で大変恐縮なんですが、昔イギリスがゆりかごから墓場ま

でと言われていたんですけども、北区でも、墓場という言葉使っていいか分かりませんが、ゆりかごから墓場まで過ごせるような、施設やサービスが整った場所だというイメージを高めていくのが大事なかなというふうに考えてございます。

#### ○副部長

ありがとうございます。

観光・シティプロモーションということで、3点ほど、自分の中で考えていました。

先ほどの場所の魅力をどうつくっていくかということと強く関わるテーマだと思いましたので、その辺りを関連して考えました。

一つは、やはり地域のシンボルというか、場所の魅力というのは、場所とか、建造物とか、自然地形とか。そこにしかないものというのがどのように地域のシンボルになっていくかに係っているような気がいたします。

公園ですとか、伝統的な寺社ですとかが存在していたとしても、そのシンボルがどう共有されて発信されていくかということが重要なかなと思います。シンボルはあるだけでは意味がなくて、それを使って何か体験を共有するから皆がそこに愛着を持って、アイデンティティを持ったり、地域のイメージが変わるということなので、何かその体験を共有できる仕掛けがあるのかなというのが一つ思ったところです。

もう一つ、観光という言葉聞いて思ったんですけど、北区内を観光、地域内の観光というイメージなのか、それとも都内を観光する際の結節点とかハブになるような、なっていくようなイメージなのかというのが少し、何か方向性としてどっちなのかなというのが気になったところです。

北区内を観光させるという戦略と、北区を拠点に都内を歩いたりしてもらおうということでは、少し戦略が変わるかなと思います。

これは、実は通勤しやすい北区というイメージと関連するのかなと。北区内で働くということと同時に、北区に住居を構えて通勤、どこでも通勤しやすいですよというイメージとリンクしているのかなという気はします。

北区の構想ではあるのですが、より大きな空間とか人の流れの中に位置づけて見ていく必要があるかなと。交流人口とも関係していると思います。

3点目として、やはり住むということの再評価ということで、これも前回の共有いただいた地域イメージ調査の中では、割合、住むことの利便性ですとか、飲食店、下町風情、商店街、水辺、老舗、緑などポジティブなイメージは既に住民の方に広く共有されているという認識があります。こういった断片的なイメージが、実際そこで住んだらこういう暮らしができるんだと。場所と結びついた暮らしのイメージみたいなのが喚起できるといいのかなと思います。

一方で、前回の意向調査で設問として抜けてしまったネガティブイメージのごみごみしているとか、潤いが乏しい、騒がしいなどのイメージも一方であったようなので、まずはこれをどう塗り替えていくかということも一つ課題になっているのかなと思いました。

以上になります。

## ○委員

観光・シティプロモーション分野ということですが、観光は豊かな観光資源を国内外へ発信する必要があると思います。

そこでは、基本の観光資源を使うということももちろん重要ですが、新たな観光資源の創出ということが必要なのではないかと思います。

それは、話題性のあることです。北区が初めてやること、日本で初めてやることだったり、コラボによって口コミであったり、パブリシティの獲得ができると思います。

例えば、来年度、浮間公園については、コメダ珈琲さんが出店されるということが決まっているかと思いますが、そのようなときに、SNSやツイッターとかを見ますと、やはり結構拡散されたりしておりまして、結構注目が集まっているのかなと思いますので。例えば、北区は鉄道の強みがあると思いますので、そういうイベントを開催するなどして、話題性の中にも進めて新たな観光資源を創出する必要があると思います。

また、観光に来てもらった方々が、北区がいい、北区がいいところだねと思わせて、やはり定住化の促進へ進める必要があるのではないかと思います。

以上になります。

## ○部会長

ありがとうございました。

## ○委員

私は、シティプロモーションということで、近隣、荒川区との連携も考えて、地域対抗の運動会をやりたいというふうに考えました。

これは、実は公募委員応募の作文にも書いたことなんですね。運動会をやりたいというのは、基本構想としてはちょっとずれていると思います。

しかし、この運動会に込めている思いというのは、構想として取り入れていただきたいと思っているのは、介護しない、介護されない人たちをつくっていく。そういったまちをつくっていく必要があるというところに起因しています。

今、私は20年後となりますと、先ほどの話もあったようにパソコン、SNSができる高齢者が増えて、外に出る機会がどんどん減っていく。今高層マンションも建っていて、マンションに住んでいる高齢者も増えています。マンションに住んでいる方というのは、一軒家に住んでいる方よりも外に出にくいという調査もあるのかなと思います。

体を使わない人が増えてくると、その分だけ転倒して骨折ですとか、介護、医療にかかるお金も増えてきますので、小さいときから体を動かす行事、楽しいイベントがあつて、それが小学校・中学校の運動会ではなく、地域一体となってやる20年、30年続いているイベント、お祭りをつくっていく必要があると思っています。

この大きなイベントに子どものときから参加して、その子どもが大人になったときにやっぱりその地域への愛着とか、子どもにやらせたいとかというのがあつて、それがただのお祭り、盆踊り大会ではなくて、運動会ということで体を使うということがすごく必要だなというふうに私は考えています。

それから、古河庭園から飛鳥山公園、それから王子神社、あの一帯で同時にお祭りを

やる。そうするとこの飛鳥山公園だけとか、浮間公園だけという局所的に人が集まるのではなくて、もしよければ文京区まで行ってしまいますけれども、一帯から全部一斉にお祭りができるとかですね。

広い範囲でお祭り、同時にイベントを開催するということができると、人も集まりやすいですし、にぎわいのあるまちづくりというのできるかなというふうに思いました。

それから、飛鳥山公園などでお祭りをやるときに、今はキッチンカー、北区に関連のないキッチンカーが集まって、地域とは全く関係ないものをみんな飲食するという図が最近あふれています。

赤羽の商店街の方たちが赤羽小学校に出店をして、その地域の夏祭りというのがコロナ前はあったんですね。ああいった形で、北区の商店、もしくは古くからやっている個店がお祭りに出店する、昔あった形というのをもう一度作り直すということをやっていく必要があるのではないかなというふうに考えました。

以上です。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

初回のときに私、ご挨拶させていただいたときに「子育てするなら北区が一番」、「老後ならば北区が一番」だけでなく、働く人たちのための考えも取り組んでいって、「働くならば北区が一番」というような感じの北区にしたいね、なんていうお話をさせていただいたんですが。

観光・シティプロモーションとして、北区のイメージ、ここに「住めば北区」とありますが、自分で北区に住んでいるのよ、北区で働いているんだよというのよ、今の現段階から10年後、20年後でもそれが胸張って言えるようなまちづくり、北区としてのシティプロモーションをしていけたらなというふうに思っているのが1番です。

先ほど、委員もおっしゃったように、ふるさと意識をしっかりと持って、地元の生まれて住んだ方がどれだけそのエリアをよくしていけるか、イベントを行えるかというのも、やはり大切な、重要な問題ですけども、それとは別に観光・シティプロモーションの目で考えると、北区の外からどうやって人を北区の中に持ってくるのか。どういうふうなPRの仕方をするのかというのが、多分大きな問題だと思うんですね。

それならば、北区でこういうイベントをやっている、先ほどの祭礼をやっている、狐の行列をやっている。ただ、物すごく人を呼べる要素というのは、北区の中にはあふれているんですよ。ただ、PRができなかったがために、知らなかったよ、そういうことというのは、本当に周りの方から話を聞いたりするので。

例えばJRさんとかメトロさんとかとお話すると、北区の外でイベントをやったときに、北区の情報をチラシとして1万枚、2万枚というふうに配っていただけると、それを現実としてご覧になった方が5%でも北区に来てくださるといような実績が上がっていますので。その辺のやり方を少しずつ考えながら、やはり取組み方法ですとか、人が楽しめるようなのはこんなのだからというので、それも産業振興課の方と手を合わ

せながらやっていけるような事例ですから。

その辺もいろんな形でお金を落とす、北区に対してお金を落とすにはどうしたらいいかとか、エシカル消費の推奨をしていただいで、観光地を自らつくり出してPRをしていきたいというふうには考えています。

また、PRをするには、箱根に行ったら箱根の温泉まんじゅうを買って行こうよ。じゃあ、王子に来たら何を、これだけは買って帰らないと行った意味がないよねというような特産物をつくるか。やはり北区に行けば何かがあるというのを極力PRしていくというのは、やはり20年後、人がつながっていけるような要素ではないかと。

20年後、未来を追いかけて北区に人が必ず何をしなくても来てくれるような要素をつくり出せれば、あそこに行けば何かがあるんだよねというような期待させるものがあればというふうに思っています。

飛鳥山も桜の時期には人が来るけど、下の通り、アジサイ通りというものすごくいいアジサイの道があるんですよ。そんなの道があるというのが現段階なのでは、やはり本当にもったいないことなので、その辺の発信をどうやって、北区の内外、中だけでなく外に対してやはり20年後も、本当に皆様が北区は、ああ、いいまちだね、働くのもいいし、遊びに行くのもいい、というような意識づけというか、植え付けができていけるようなことをしていきたいと思います。

以上です。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

観光・シティプロモーションって多分考え方が三つぐらいあると思っていて、これは、その場所の話というのはすごく歴史的な文脈だったりとか、その場所にスポットを充てるというような形での話と。思想的な観点で言うところでの今回は渋沢栄一のレガシーを残しながらというところで、みんなが共通のビジョンを持つということがあると思うんですね。三つ目が情報としての革新、発信ということがあると思うんです。

それらを今回、これから先20年後に向けてどういうふうに北区が動いて行くかというのを考えると、やはり今年度からスタートしている渋沢栄一のプロジェクトを中心としながらというのが、ずっとこれから先はついてくる文化になると思っているんです。

新しくこれを北区に根付かしていくという形が必要になったときに、どういう場所をつくっていく必要があるのか。大河ドラマ館で1年間限定のものだったものが終わってしまった後に、北区がこの渋沢栄一というものを、どういうゆかりの地にしていくかというのが、今までも飛鳥山公園の中には、ずっと渋沢栄一の史料館はあったけどもそれが根付いていないということは、これからどうやってその新しいことに関してスポットを当てていくかというのが一つの観光だと思うんですね。

そういうのは、渋沢さんのもともとの思想のパブリックマインドのある公民連携みたいな形だったりなどでも取ることができると思います。

今、委員がおっしゃっていましたが、運動会という話はとてもいいなと思いつつながら、

飛鳥山公園で渋沢栄一が日本で初めて運動会をしたという話もあるので、飛鳥山から新しいそういうイベントをつくっていき、それを情報配信していくみたいな形は、地域の特色を正しく配信していくというのはとても大事なことだと思いますし。現在のPR大使みたいな形って、結構芸術分野によっていたりとかということがあると思うんですけども、これからの20年間に向けて、新しいそういう観光大使だったりとか、PR大使みたいなものがしっかりと情報配信をしていくような形を取っていくというのが、世界に向けても、日本、さらには東京の中でも北区というものの在り方というのがまだまだ魅力の配信が足りていないんじゃないかなというふうには感じております。

そして、同時にこういうエリアをどうやって変えていくかということに対してのエリアマネジメントだったりとか、今これから始まります飛鳥山公園のPark-PFIを含めた、パークマネジメントという形での公園を中心としたまちづくり、さらには、その公園を中心として、そこからまちの中に歩いて行ってもらう。行事だったりとかお祭りという話があると思うんですけども、日常でどのようにこのまちを使い倒してもらうかということが、もともとの産業振興のほうにもありました、町の中でも働き方ということと、その地域を活性化させるという意味では、ウォークブルシティみたいな形での都市経営の考え方をしながら、まちとまちをつないでいく。何ならば、地域に住む人が赤羽と王子間は歩いて移動しながら仕事するみたいな形で、地域をちゃんと使い倒すようなまちづくりを考えていくための仕組みづくりをしていかなければいけないんじゃないかなと思っています。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

観光・シティプロモーションということで、今まで皆様意見出ていましたけど、今あるものをもっとアピールしていく。それから、新しいものを20年後に向けて創出していく。いろいろ考え方あると思うのですけれども、やっぱりさっきも意見出ていましたけども、まず北区のイメージという部分では、北区といたら何、みたいな強烈なイメージをぜひみんなで作っていったらいいのかなというふうに思います。

飛鳥山公園の話も出ましたけども、少し書かせてもらったのは、やっぱり桜の時期は非常に皆様、飛鳥山に集まっているという話になるんですけども。あと夏、秋、冬、少し寂しい感じ。そこを、せっかく桜で来ていただいているのだから夏も来ていただける、秋も来ていただける、冬も来ていただけるような仕組みをつくっていったらどうなのというのをちょっと考えました。

それもいろいろあると思うのですけども、一つの具体案としてあと何点かですね。

あと、隅田川、荒川というものが北区はずっとあるのですけども、以前にも案があがったか、あがっていないかというような話もありましたけども、川の路線を使って遊覧、交通、観光、何かこうできないだろうかというのを少し考えてみました。

それから、コミュニティという部門で考えて、北区でも今もちろん飛鳥山公園や王子神社や、古河庭園とかいろいろあります。そういうところに、抜き絵というんですか。



そういうものをつくって、観光ガイドとしてコースをつくり、そこで写真を撮ってもらってSNSに上げていただいて、フォトスタンプラリーみたいな、何かそういうようなコミュニティのようなものがないだろうかということ。

それと、今ある都電も日本でも走っているところ非常に少ないので、もっと都電をアピールするような方法はないだろうかとか。その辺を皆様で考えながら、今あるものと、それから新しく作り上げていくもの。一番はやっぱり、北区といたら何、という明るいイメージのキャラクターでもいいですし、イメージでもいいですし、そういうものをみんなで作りに上げていくような仕組みをつくっていただけるといいのかなということ、具体的ですけども、一つの例として述べさせていただきました。

#### ○部会長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から一通り終わりましたので、次は事務局から政策検討シートについて、ご説明いただければと思います。

よろしく願いいたします。

#### ○事務局

事務局でございます。

ご意見いただきました本日欠席の委員のご意見も紹介させていただきたいと思っております。

いただきましたご意見は、どんな人も住みやすいやさしいまち、病気、障害、高齢者、シングルママ、パパ、ジェンダー、外国人、古きよきものも大事に。レトロブーム、喫茶店、ランチ、まち中華、商店街、マップやファンモン、観光資源はたくさんあるのに生かし切れていないイメージがある。

鉄道、映画やドラマの聖地巡礼マップ、寺社仏閣、建築ごとの祭り・伝承。北区らしさ、多様性のまち、地域によって大きく違うということで、それぞれの地区で掲げさせていただいております。

それぞれのまちの個性を生かす。スタンプラリー、地区カード等のイベント。未来の北区ドリームマップづくり、小中学生にどんなまちになってほしいか。エレカシにちなんで、音楽コンテスト。バンドや楽器練習ができる場所。

北区に住む外国人の今まで育った国の祭り、料理、伝統。

こういった意見をいただいたところでございます。

それでは、政策検討シートの観光・シティプロモーションについて説明をさせていただきたいと思っております。

このシートでございます。基本計画をご覧ください。こちらの74ページをご覧ください。

先ほどの「地域産業の活性化」でございますが、こちらの観光分野について載せていただいているものと、もう一つ、210ページでございます。

4-3「自治権の拡充と広域的な連携・協力の推進」の(2)の「北区らしさ」の創造と発信のシティプロモーションやイメージ戦略等を切り出して、こちら一つの政策としてまとめさせていただいたところでございます。

こちらの政策ですが、平成28年度に観光協会設立をしたこと、また、令和2年度シティプロモーション推進担当課の設置、新一万円札の決定や大河ドラマの放映など、区として観光・シティプロモーションに係る動きが非常に大きくなっているということや、観光とシティプロモーションの関連性が強いことから、観光・シティプロモーションとして政策として新たに目出しをさせていただいて、一つの政策とさせていただいたところでございます。

こちら、(1)の観光振興の主な実績、お示しのとおりなんですけど、まずは三つ目でございます。

三つ目、写真映えするスポットを紹介する。中央図書館や旧赤羽水門などからスタートする回遊観光ルートの開発。四つ目でございます。渋沢翁にちなんだ新しい商品開発。五つ目が平成24年から実施しております北区花火会でございます。

主な成果でございますが、二つ目の区内のまち歩きに同行し、北区の魅力を紹介しながら観光コースを案内する観光ボランティアガイドの利用者数の増や、三つ目でございます旧古河庭園、飛鳥山博物館などの区内主要観光施設の入込客数の増、こちらを主な成果とさせていただきました。

先ほども副部長からご意見もいただきましたが、都心へのハブとしての観光というよりも、地域内の観光というのもメインに考えておまして、委員からもご意見いただきましたとおりで、どうやって北区に来ていただくか。こういったところが観光・シティプロモーションのポイントだと考えてございます。

続いて、(2)のシティプロモーションでございます。

主な実績でございます。一つ目の大河ドラマ館の設立・運営。二つ目でございます、今年で20回目となりました内田康夫ミステリー文学賞、4人のメンバーのうち3人が赤羽出身のエレファントカシマシとのコラボレーションなどがございます。

こちらも主な成果でございます。右隣、ご覧ください。

本当に住みやすいまちランキング2020において、赤羽や王子が上位にランクインされたこと。また、SNSの実績等をちょっと記載させていただいております。特にLINEについては昨年10月に北区に導入をさせていただいたというところで、令和3年4月23日時点ということで書かせていただいておりますが、10月7日時点で1万1,443名が登録をさせていただいている状況でございます。

下の2の当該分野における区を取り巻く環境の変化ですが、先ほどのシート同様、こちら上の項目に対して法制度や国・都の政策の変化、社会経済動向、区民ニーズや行動の変化で分けてお示しをしています。

まず、左下ですね。社会経済動向でございますが、新型コロナウイルスの影響による訪日外国人観光客の激減、交流事業の規模や実施方法の制限などを記載させていただいております。

次に真ん中の法制度や国・都の政策の変化に移ります。法制度や国・都の政策の変化の一番上でございます。観光立国推進基本計画、こちら、今年の3月までの計画期間でございましたが、コロナ禍で観光を取り巻く環境が見通しづらいとの理由で、改定が先送りされております。直近でも皆様もご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症に関する水際対策強化などされているなど、外国人の入国が大きく制限されている状況でござ

ございます。

また、最後の三つ目でございます。法制度や国・都の政策の変化の三つ目です。ワクチン接種証明と行動制限の緩和についても、動向が注目をされているところでございます。

右の区民ニーズや行動の変化でございますが、前回の審議会でもお伝えいたしました、区民意識・意向調査の結果を中心に上げさせていただいております。

続いて、2ページご覧ください。

2ページの3の区の現状、(1)の観光振興でございます。現状でございます。

渋沢以外の観光資源の積極的な活用に至っていないこと。観光協会をハブとした、魅力発信に係る取組の推進を現在進めているところでございます。

こちらは関連資料、図表1もご覧いただければと思います。

北区の魅力である鉄道、先ほど出ましたが鉄道の観光スポットや産業遺産、こちらについて多いまちという印象が、こういった結果からみても印象が薄いという結果となっております。

こちらの(1)の観光振興の課題でございます。4の課題、こちらの上から三つです。一つ目、二つ目、三つ目。観光資源の認知度の向上、回遊観光の促進、これが一つ目でございます。二つ目が魅力の発信の充実。三つ目が観光産業の在り方の検討でございます。

お隣、またご覧いただきまして、5の取組みの方向性、上から三つでございます。

観光エリアマネジメントの推進など。二つ目、区の観光ホームページや観光協会のSNSを通じた魅力発信。三つ目、北区観光の経営力の強化でございます。

また、区の現状(2)にお戻りいただきまして、3の(2)でございます。

大河ドラマや2024年に新一万円札の肖像になることから区内外より北区への注目度が向上をしていること。飛鳥山公園や荒川河川敷などの公共空間の魅力向上と情報発信ニーズが高まっていること。情報発信ツールの登録数の推移は図表の2をご覧ください。

また、北区がどれだけメディアに取り上げられたかということの指標として、図表の3を参考にご覧いただければと思います。

こちらの(2)シティプロモーションの課題と取組みの方向性でございます。

4の上から四つ目、五つ目、六つ目。区内観光産業の振興。渋沢で高まった区の知名度やイメージのさらなる発展。区民への地域への興味・関心の喚起。これを課題としております。

お隣、5の取組の方向性、ご覧いただきたいと思っております。

5の下から一つ目、二つ目でございます。北区の特性を生かし魅力の創造・発掘。公民が連携して、的確で時流に即したプロモーションの実施・展開でございます。

以上、検討シート「観光・シティプロモーション」について説明させていただきました。

○部会長

どうもありがとうございました。

それでは、先ほどと同じ手順で今の政策検討シートを踏まえ、また先ほどの委員の皆様方とお話を踏まえて、一言ずつ各委員からお話をいただければと思います。

○委員

皆様のお話も伺いながら、今説明を聞いて情報の発信の仕方というか、情報の発信から次につながる何かというものが、先ほどの産業振興と含めて、まだいまいちなのかなというのを感じました。

観光という部分では、いろいろな施設や神社・仏閣、あと風景というか、そういう部分ではいろんなものがあるんですけども、そこをちょっとまだ有効的に活用できていないのかなというのが自分も含めて反省点だというふうに感じております。

あとは新しいものを20年後ですから、やはり新しいものを創設するやる気というかパワーみたいなものをこの中から生み出せたらいいのかなというのは、個人的には感じました。

以上です。

○部会長

ありがとうございます。

○委員

今の子どもたちはもうタブレットを持っていて、学校でもこういう情報社会になってきているので、これからはもうちょっとそういう情報の促進みたいな話からの観光って進むんだろうというふうに感じていまして。これから観光協会もそうですけど、役所の産業振興とも一緒に進めていきながら、シティプロモーションをなかなか高齢者の方々に伝えていくのは難しい部分もありますけども、これからの世代に向けてどうやってこの北区のことをもっと魅力配信していくかということをやっていくのがこれからの20年なのかなと思っていますので。その辺りを含めて、大人たちだけが分かる観光・シティプロモーションだけではなく、子どもたちが分かる幼稚園、小学校ぐらいからの北区へのゆかりというのをどんどん学ばせる仕組みとかをつくっていくほうがいいのかなというふうに感じました。

○部会長

ありがとうございました。

○委員

先ほどの他の委員のデータの中にもありましたが、北区で起業をというような形の促進ですけども。法人会の毎月の新規の説明会には、大体、月20件ぐらいの新規法人起業さんの方がいらしているんですね。

その方にお伺いすると何で北区を選んで起業なさったのですかというようなアンケートを必ず取るようになっていて、やっぱり一番は利便性です。利便性の中に、その次は

家賃が安いこと。じゃあ、何を望みますかと言ったら、やっぱり北区として、企業として、あとは税務署さんとして何をさせていただきたいかというところ、やっぱり右も左も分からないので、ある程度手を差し伸べて確保をしていただきたいと。いろいろ形で説明会を、北区のことに関しても説明会をしていただきたいというふうなアンケート結果で出ているので。その辺、しっかりとした個々に対してのプロモーションというのも大事なことかなと思ってはいるのですよね。

そうすると、みんなが欲しているところのPRを受け止められるような、情報発信等もできればいいのかななどと思ったりしています。

また、あと、新庁舎は10年後、15年後には建ちますので、それを黙ってみている手はないのではないかなと。やはりPRとして、観光・シティプロモーションとして有効活用というか、このような形で新庁舎が出るので、こういった形で人を呼べるのかとか、観光としてうまくできないのか。

あとは、周りに色づくと言ったらおかしいですけども、企業さんなんかも随分変わってくるので、国立印刷局さんなども随分と建て替えなんかもありますので、建て替えのときに少し観光としてというか、周りに気を遣いながら、建ててくださいとか、例えば札幌のまちみたいに時計台みたいな形で人が集まれるようなものをつくってくださいとか。地元に戻元できるものという、企業としてたくさん大きな企業が北区にはありますので。それとしっかりと手を組んで、人が呼べるだけの余力というか、していただけるというような形で持っていくのも一つの手じゃないかなと思います。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

私も情報発信について考えておりました。

その情報発信が、どこの誰をターゲットに、観光と言ったときにどこの人がここに来てくれるのかというところを想定していくのかなというのが分からなかったというか。そこを考えていかないと、情報発信の仕方とか、お金の使い方というのが変わってくるんだなと思いました。

海外の人を呼ぶのか。近隣の人に来るのか。そこが決まっていくのか、何をつくるかにもよるのかもしれないんですけど、そこの誰をターゲットに観光を打っていくのかというのは、すごい重要なんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

#### ○部会長

ありがとうございました。

#### ○委員

皆様が言われるように、やはりPRの方法ということが大事なのかなと思いました。北区の観光は、潜在的であるということですね。媒体だけではなくて、方法ですね。

SNSの活用、例えば農林水産省とか、今動画投稿がされていまして、かなり若者の間でもはやっております、チャンネル登録者数も10万人も超えるような面白い動画もありますので、そういう活用方法もあるのではないのかなと思いました。

また、北区のイメージやロゴといったブランディングというのが、とても重要なことなのかなと思いました。

以上です。

#### ○部会長

ありがとうございました。

よろしく願いいたします。

#### ○副部会長

観光についても補足説明いただいて、ありがとうございました。

観光・シティプロモーションということを知って、皆様のお話を伺う中で、シティプロモーションってやはり2方向あるなというふうに思いました。

一つは観光として、外から人を呼ぶとか、遊ぶということに焦点をおいたシティプロモーションと、当該分野の実績と成果に書いていますが、子育ての魅力発信とか、住むとか暮らすことのシティプロモーションということと、二重の構造があって、ここはきれいに峻別できて、かつPRできるといいのかなというふうに思いました。それぞれターゲットや打ち出し方が異なると思います。

ただ、一方で、両方が重なる場所もあって、それが例えば公園とか、公共性の高い環境に関しては外から人を呼び込む場所にもなり得るし、暮らしている人たちが休みの日をそこで過ごしたりして、ちょっと買物したり食事したり帰っていくような、そういうのもあるので。何か二つに分けられそうな部分と重なる部分をうまくつくりながらPRできるといいのかなというふうに思いました。

あるいは、遊ぶ・働く・住みたいな、よくある三つの分け方とかもありかなと思いました。

あと、他の委員からご発言のあった、ウォークブルシティってすごくいいなと思っておって、観光資源をつなぎ合わせるという意味では回遊性のある種大きな地区とか、区の範囲でつくるということだと思うんですけど、一方で、暮らすということに焦点を当てると、最寄りの駅から自宅までの間の、その範囲の回遊性を持つべきかということになって。また二重の回遊性みたいな、できるとすごくいいまちだなというふうに思いました。

#### ○部会長

ありがとうございました。

皆様、非常に貴重なご意見をいただきました。

個人的に、今気になったご意見二つ。一番、2名の委員が隅田川、荒川の話をしていましたが、個人的に例えば観光と言ったときに北区だけでできるものと、あるいは北区とほかと連携していくということも大事ではないかなというふうに思いました。

また、他の委員からお話しのあった、二つものを結んでふるさとをいかにしてつくっていくかということと、人を呼び込むものという、両方考えていかななくてはいけない。その中では、観光のターゲットをどうしていくのかというようなご指摘も非常に重要なことでもないかなというふうに思っています。

個人的には、今言ったように観光あるいはシティプロモーションと言ったときに、北区だけができること、あるいは観光にしても多分ほかの区と連携していくような、これ北区の中でそこまで書けないのはよく分かっていますが、少し頭の中にそういったことも踏まえてシティプロモーションを考えていく必要があると思います。

あと、もう一つは、いろいろイメージとか、いろいろなご提案の中で、果たして本当にそれで人は来てくれたのかという検証というのは大事だと思います。何かイベントをやったときに、それ以降、例えば毎週日曜日、今までと比べて少し人が増えたのか、さらに統計的なモデルをつくるかつからないか別にしてもやっぱりこれをやってからこれだけ効果があったというのも、今、基本構想の中でやる話ではないんですけど。将来的に考えていくのも特徴かなというふうに思いました。

これで観光・シティプロモーションで検討シートのご説明、それから皆様からのご意見をいただいたということですが、最後に今までを通じてまだこういったこととお話しされたいという方がいらっしゃればどなたか。

観光・シティプロモーション、産業振興を含めて何かお話ししたりないという方がいらっしゃれば。もしなければ、その他ということで、次に事務局のほうにお返ししてよろしいでしょうか。

(なし)

## ○事務局

事務局でございます。

今日ご欠席という形になってしまったので、20年後の望ましい姿、もう1名の委員からもいただいているんですが、またこちらの資料については、皆様とここで画面だけの共有ではなくて、紙ベースで共有とさせていただきたいと思いますので、その際にまた共有をさせていただきたいと思います。

本日、ご議論いただきました二つのテーマ、20年後の望ましい姿（部会后）について、部会前のものについて皆様に記載をいただきました。もし、こちら部会后についてもご記入いただければというふうに思っております。

また、ご提出ですが、今日書くことは難しいという方、たくさんいらっしゃるかと思っておりますので、2週間後の12月27日（月）までに資料の「今後の部会の進め方について」の2ページ目、皆様には電子メールでお送りさせていただいておりますので、そちらにワード版もごございます。そちらのメールのほうに2週間後までにご返信をいただきたいと思っております。

また、もしメールではなくファックス、手書きでということであればファックスでも承りたいと思いますので、12月27日までにご返送のほう、よろしくお願ひいたしま

す。

次に、次回のスケジュールでございますが、次回は1月25日（火）14時から北区役所第一庁舎4階の第2委員会室で部会を開催いたします。

今回同様、資料についてはメールと郵送にておおむね部会開催日の1週間前に送付させていただきます。

事前に資料をお目通しいただき、当日は資料をご持参いただきますとともに、20年後の望ましい姿（部会前）についても事前に記入を、どうぞよろしく願いいたします。

また、大変重たくて恐縮ですが、基本計画2020についてもまたご持参をいただければというふうに思っております。

また、欠席される場合については、20年後の望ましい姿（部会前）について、部会開催日の前日、1月24日（月）までに送付をお願いしたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

#### ○部会長

ありがとうございました。

20年後の望ましい姿（部会前）に事前に記入するテーマは。同じ産業振興とか。

#### ○事務局

今回は、テーマが変わりまして、次が地域振興、あとは人権や多様性、そういったところの分野についてといったところで、部会ごとにテーマ、それぞれ設定していますので、そちらのほうでご記入を事前にしていただきたいと思います。

以上です。

#### ○部会長

それでは、どうもありがとうございました。

これで、第2回部会1躍動部会を終了させていただきたいと思えます。次回の部会もよろしく願いいたします。どうもお疲れさまでした。